

南アルプス学会 設立趣意書

「南アルプス」は、日本有数の山岳公園です。3,000m峰を有する稜線部を中心とした核心地域には、氷河期からの遺存種をはじめ希少な動植物が生息・生育しています。同時に日本最南端の3,000m峰を有することから、地球温暖化の影響がもっとも顕著にあらわれる場所でもあります。

「南アルプス」はまた、静岡、山梨、長野の3県10市町村を主体に、国、3県、関係事業者と連携した活動が実を結び、平成26/2014年6月、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）から「ユネスコエコパーク」に登録されました。それは、「自然と人間社会の共生を目的に、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然とともに文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す」地域、まさに「世界の宝」「人類共通の資産」として認められたこととなります。

一方、「南アルプス」は、その急峻さや奥深さから、生態系や環境の変化を追跡し、記録することがかねてより困難でした。さらに山間地の人口減少に伴い、環境保全を担う人も不足し、地域社会を支えるなりわいそのものの存続も危ぶまれはじめています。また学術の世界でも、息の長い研究の遂行が年々困難になってきていることも深刻です。

こうした課題を克服し、「南アルプス」の自然環境と人々の営みによって受け継がれてきた文化を人類共通の資産として未来に着実に引き継いでいくために、これまで蓄積された学術的知見に加え、研究者や地元関係者、企業、ボランティアや行政など多くの立場の人たちが連携、協働し、自然環境の調査研究と保全活動の定着、地域社会伝来の行事や文化の維持継承、地域にふさわしい産業の振興などを一体として目指す、いわば風土を再発見するための学問「南アルプス学」の発展が求められています。これに応えるために、関連する知を体系づけて統合し、世界に語りかける研究プラットフォーム、「南アルプス学会」をここに設立します。